

【唐池】 皆さん、こんにちは。J R九州の唐池でございます。大変分かりやすい、そして体系的な星野先生の後の時間をいただきまして、大変やりにくいんですけれども、40分お付き合いいただきたいと思います。早速いきます。早速いきますってなかなかパワーポイントは用意したんですけど、パワーポイントまでいったら今日は上出来で、いかなかったらお許しいただいて。アジアと九州、私は人の交流、あるいは観光とか、人の交流の点で、いくつか申し上げたいと思います。2年ほど前に、大宰府にちょうど今頃行きました。

大宰府というと受験の神様、そして正月三が日は大変参拝客でござったがえすんですけど、今の時期に行きますと、割と閑散としておりますけど、2年前、7月、ちょうど今頃行きましたときに、それでも百人ぐらい参拝客が本堂の前の広場にいらっしゃいました。私は駐日トルコ大使ですね、トルコ共和国の日本に駐在されていらっしゃる大使さんを連れまして、大宰府に案内したんですけど、大使はイスラム教ですから、何とか日本神道に変えさせてやろうと思ったんですけどなかなか変わらなかったんですけど。それはともかくとして、実際に参拝しましたけれど、驚きました。7月に、皆さん行って下さい、分かります。参拝客の8割はアジアの人ですね。アジアの人なんです。それを前後して2年前、熊本城に行きまして、築城400年の天守閣の威容を誇る、最近では本丸御殿ができて、日本で最も入場者の多いお城、熊本城に行ってきました。ちょうど今頃です。2年前。天守閣の前にやはり広場がありましてね、私、見渡しましたらやはり百人ぐらいいらっしゃいますね、ずっと顔つきとか名札とか横断幕とかずっとありましたからね。ずっと見回すと、やはり8割、7割以上はアジアの人。そのうちの大半が韓国の人ですね。そして台湾、香港、中国と、そういった国々の人が、圧倒的にその百人の中に、全体のアジアの中の人で8割近いですね。

ハウステンボスが、やっとH I Sさんが入って、今再建途上にあ

りますけども、2年ほど前のハウステンボスの入場者数で、まだまだ日本の修学旅行生が多かったんですけど、それでも3割はアジアの人なんですよね。私どもハウステンボスの前でホテルをやっていますけど、JR全日空ホテルというのをやっていますけれど、そのハウステンボスホテルが20%が韓国の人ですよね。今日は3年前までハウステンボスホテルの社長をしておりました町さんも今見えていますけれど、今、町さんは、先ほど星野先生がご紹介いただきましたビートルのJR九州高速船の社長に先月就任されたばかりですけどね。その町さんに聞きますと、20%は韓国の人だと。湯布院に行きますとね、また驚くなかれ、湯布院というと、多分東京、あるいは福岡からね、若い女性のごった返しているんじゃないかと思いきや、あの湯の坪街道を歩きますと、これも7割がアジアの人です。今。もうまさにそんな状況ですよ。

先日、北海道の札幌に行ったついでに網走刑務所まで行ってきまして、別に入ったわけじゃないんですけどね、観てきました。観光でね。刑務所博物館みたいなのがありますよ。あそこは。面白いんです。蝋人形で明治時代の牢屋とか、その警察官というか、牢屋の番人みたいな人が蝋人形で作られて、これがそのかつてのそうなのかということで、大変興味深かったんですけど。そして本当の刑務所もありますからね。きちっと立派な門がありましてね。「ああ、これが高倉健が時々出てきた門なのか」とかね。感激しながら見てみました。見渡してみると、日本人が少ないんですよ。北海道の知床の手前で札幌から遠く離れたあの場所ですよ。なんと台湾の人が多分6割以上ですよ。何百人といましたけれど、6割以上台湾の人ですよ。もう台湾の人がここまで来ているのかということですよ。

最後申し上げますのは、私たち九州は、あるいは福岡は、人の交流、観光を考えると、どこがライバルなのかということをお考えないと、攻め方、あるいは方向を間違うんじゃないかと思えます。

ライバルは、後ほどまたお見せしますが、博多駅ビルも来年の3月に出来上がりまして、開業いたします。そうしますと、地元のマスコミの方から、博多駅対天神、逆ですね。天神対博多駅。このご当地ホテルのあるこの天神。大変九州一と言いますか、大阪を除けば西日本一の繁華街でありまして、商業集積も大変なものです。

それと比較しようが博多駅はないんですけどね。まだまだゾウとアリのような関係ですけど、それでもマスコミは面白がって、「天神対博多駅の流通対決だ」と、こう囃したてていらっしゃるんですけどね、そうじゃないんじゃないかと。そんな小さな戦いをしちゃいけないなど、こう思っていますね、それが最初申し上げた、お客様は、今、圧倒的にアジアの人なんだと。あの大宰府で、ですね。

日本の神社をそれほど好きじゃないと思われておりますアジアの人がね、「日本の神社を見たい、参拝しよう」と。そして「熊本城の加藤清正は決して好きじゃないんだけど、とにかく熊本城を見よう」と、こうなんですからね。そういう人たちが7割、8割なんですよ。湯布院ですら。そういうところで、「ライバルはどこなんだ」と、こういうことを後半申し上げたいなと思っています。

星野先生からもありましたように、アジアの発展、左側が2000年、右側が2009年の世界のGDPの割合です。下のほうのオレンジ色、アジア10.8%が、なんと2009年右側には16.5%と9年間で11.6倍にシェアだけでも膨れ上がっているわけですね。全体のGDPはもっと膨れていますからね。絶対額としてはもっともって大きくなっているわけです。星野先生のお話にもありましたように、港は上位10の港、コンテナの取扱量の多い10の港。もうほとんど今アジアですよね。シンガポール、上海、香港、深圳、釜山とこうなっておるわけで、わずかに東京が26位ですか、横浜が36位という。もう大人と子供といますか、全く競争にならないくらいアジアの港が発展しておる。これは経済の成長ということも相まって、こういう

状況ですね。九州はと言いますと、星野先生もおっしゃいましたように、九州のライバルは実は日本全体のアジアとの交流、アジアとの接近が実は九州にとって一番脅威だと、星野先生がおっしゃいましたけれど、そういう脅威の中でも、九州の優位性というのは、歴史的につながりが深いということと、地理的に近いということですよ。ただ昨今のように人の交流で考えますと、もう飛行機が中心になってきますと、あまり地理的な近さというのは、それほどプラスに働かなくなりつつあるんだということです。

従来、昔ですと、もちろん海、船が輸送、移動の中心ですから、古代で言いますと、遣唐使は難波、大阪の港を出てから瀬戸内海へ来て、そして博多の港に寄って、前半は壱岐対馬経由で朝鮮半島に上がって、遣唐使を派遣したわけですけど、その航路ですけど、遣唐使の後半は南ルートを通りましたからね。博多の港に来てから、今度は平戸に行って、そして五島に寄ってから、そしてまっすぐ中国大陆に向かうというこのコースですよ。大変危険な目的の港まで行ける確率の大変少ない、小さいルートをとったんですけども、遣唐使も全て九州に立ち寄って行ったわけでありませぬ。それから反対に鑑真和尚は鹿児島島の坊津にやってきまして、鑑真和尚以来数百年と言いますか、千何百年か経って、坊津には007がやって来たんですけども。

それはともかくとしまして、そのように九州というのは、元々アジア大陸との交流の拠点であるDNAを持っていますよね。九州の強みというのは、地域的な近いということが一番大きく言えると思いますけれど、もう1つは歴史的につながりが深い。そして根っこの人脈と言いますかね、深い人脈がいろんなところに、皆さま方も多分お持ちなんですよね。それぞれの人脈がおありであります。それは九州が一番あるんじゃないかと思います。それは歴史的なものがあるんじゃないかと思います。ちょっとレジメのほうに行きます

と、私が考えますに、九州の人の交流という点で、九州にしかない、あるいは九州だけしかありえないとか、あるいは九州が今持っている強み、これは3つあるんですね。

1つはアジア太平洋子ども会議だと思います。1989年、福岡でよかトピアの博覧会が開かれました。今から21年前ですけど。そこを1回目にしまして、アジア各国から子供たち、これも11歳の子供を毎年300人から400人、福岡に招聘をいたしまして、青年会議所の方が、あるいは青年会議所のOBの方が中心になって、なんと今年で21回目ですか、22回目ですか、とにかく21年続いているわけですよ。毎年11歳の子供が300人から400人、福岡にやってきてホームステイをしてですよ、それがもう20年以上続いていますから、トータル6,000人から7,000人になっているんですよ。最初の89年に来た子供たちはもう32歳ぐらいですよ。その人たちは大変各国でリーダーになりつつあるんですね。この人脈のつながりですね。

それも20年も続いているし、まだまだ続くでしょうからね。これは他の地域、日本どこを探してもないですよ。このアジア太平洋子ども会議は、私は本当に敬意を表したいと思いますね。よくぞ続けていただいたと、よくぞ取り組んでいただいたと。それを受け入れる市民の方も、ホームステイで受入れますしね、青年会議所の方の献身的な活動も頭が下がる思いですが、これは他の地域にはない、九州の誇り、福岡の誇りだと思います。

2つ目が、立命館アジア太平洋大学じゃないかと思いますね。APUという、別府にあります。学生数が6,000人。大学を開いたのが2000年ですから、今から10年前。6,000人の学生のうちに3,000人がアジア太平洋からの留学生ですよ。こんな大学は全国にどこを探してもないんですよ。そして日本に来た留学生は大概半数以上、大半の人が日本を嫌って帰ると言われていますよね。そういう中で別府にしては珍しくと言いますか、なかなか別府は元々おもてなし

が極めて低い街なんですけれど、そんなことを言うと怒られますけれど、低かったんです、かつてはね。ところが、アジア太平洋立命館大学の留学生はね、別府の人は本当に温かく迎え入れていてね、A P Uを卒業した留学生は、皆別府のファンになり、さらには九州のファンになって、母国に帰るといふふう聞いております。

この6,000名中、3,000名の留学生というのは、これも九州の宝だろうと。

アジア太平洋こども会議と、立命館アジア太平洋大学とこの2つ、それにプラス、九州の強みは、ビートル。星野先生のご紹介もいただきましたけれど、このビートルも他の地方では絶対できないですよ。やはりこれは海を使った、あるいは海路や船を使った輸送、交通手段ということでは、それはもう一番近い福岡と釜山、ここしか考えられないんですよね。ゆったりと1泊も2泊もして、船旅というのはまだまだマイナーでありますから、一気に3時間弱で福岡と釜山の間を、海峡を越えるというこの交通手段が、実は他の地域にはない、本当に九州の一番の強みじゃないかと思っています。

アジア太平洋こども会議、立命館アジア太平洋大学、ビートルとこの3つが他の地域にはありえない一番の強みだと。4つ目については、私は王監督の福岡の滞在というか、福岡にお住まいいただいている王監督が4つ目の私どもの宝だと、それはさておきまして、そういったことを考えております。元々DNAが九州にありますので、その九州全体でそのDNAをもっともっと強く継承していくと。DNAをもっと強くしていくということが私たちの仕事じゃないかと思えます。

話は変わりました、2大プロジェクト。共に来年2011年3月に開業、開通をいたします。1つが九州新幹線全線開通であります。もう1つは、新博多駅ビルの開業であります。鹿児島ルート、九州新幹線、ちょっと分かりにくいんですけど、下のほうの新八代、鹿

児島中央と薄い字でなっていますが、これが6年前に開業いたしました、今回来年の3月に開業するのがこの新八代―博多であります。

これが開業することによりまして、鹿児島中央から新八代を通りまして、博多を通りまして、ずっと東側、右側に新大阪、さらに右には東京までレール1本と言いますか、1、2、3、4、レール4本がですね、鹿児島から東京までつながるということになります。どんな時間になるかと言いますと、一番下で、全線開業時と書いておりますが、分かりにくいんですけど、博多と鹿児島の間が1時間20分になるということです。10年前は4時間かかっておりましたので、それが博多と鹿児島が1時間20分。そして博多と熊本が35分ということでございます。

さらに本州との時間距離ですけれども、例えば鹿児島から新大阪は、今までは博多で乗り継いで新幹線を乗り継ぎまして5時間かかっていました。これが4時間。熊本―新大阪ですと、約4時間かかっていたのが、これを3時間ちょっとということで、それぞれ1時間ずつ短縮しまして、鉄道、JRの限界は4時間と言われていまして、4時間を超えると圧倒的に飛行機なんですけどね。今回、大阪とこういう時間で結ばれることによりまして、今までは熊本と大阪、あるいは鹿児島と大阪は、圧倒的に飛行機が便利であります。90%以上のシェアが、飛行機が持っております。今回山陽新幹線と相互直通、全線開通することによりまして、かなりなシェアがJRにも流れてくるんじゃないかと期待しております。

「さくら」という列車が鹿児島発。鹿児島中央駅のホームに立ちますと、「さくら」という新幹線の列車が新大阪行きという列車表示の下で、出発をいたします。まあもっと言いますと、あの桜島の麓の鹿児島中央駅のホームから「さくら」という新幹線が、実は鹿児島出身の女子プロゴルファーで横峯さくらというのがいるんですが、彼女は男子プロ並みの飛距離を誇っております、男子プロはどれ

ぐらいのティーショットの时速かと調べましたら、およそ 260 キロの时速だそうです。これは実はたまたま新幹線の时速と一緒にあります。もう一度言います。桜島の麓の鹿児島中央駅で、新幹線の「さくら」が横峯さくらのティーショットの时速で、熊本城の横の桜を見て、博多の桜を見て、新大阪に向かうということでもあります。

鹿児島ばかり褒めたたえますと、熊本の人が怒りまして、熊本は熊本城の桜しかないのかと。私は考えました。いやいや、そうだ「馬刺し」があった、馬刺しは「さくら」というじゃないですか、とかそんなことを言っていますが、「さくら」というのが走ります。

それで九州内に走るのは、「つばめ」という列車が相変わらず走りますけれど、これがまたいい車両であります、800 系と。この新大阪まで行くやつは、あれ、今日は西日本の方がいらっしゃるのかな。あんまり悪口言うと怒られますね。これもいい列車ですけど、これは省略しましょう。九州に走る 800 系はいいんですよ、なかなか。分かりにくいようですけど、車両の入り口は、金箔を貼っています。金箔を。それから背もたれは木ですよ。見えにくいんですけど、窓のブラインドは桜です。桜の木です。

日本の文化を敷き詰めていまして、和、和、和なんですね。金箔ですから、皆さんお乗りになるときは、カッターナイフかなんか持って行かれると、ちょっと 5センチ四方で 500 円ぐらいしますから。そんなことはできないように固いシールで覆っておりますけれど。

それから私たちは一番大事にしているのは、この新幹線で博多、熊本、鹿児島という縦軸だけではなくて、九州全域に新幹線の開業効果を及ぼしたいと。九州全域に新幹線効果が及ぶようにしたいということでもあります。いろんな新幹線と結ぶ列車を作っております。

去年作りしたのは、SL「人吉」という、SLでありますね、熊本から人吉の間、この図で言いますと、黒いところを走っております。それから黒い先の黄色い人吉から吉増と、山の中を走ってお



りますのが、「伊三郎新兵」という変った名前の列車がある。これは赤い列車であります。なんで赤いのかといいますと、熊本を走るから赤いんだと、こういう理屈なんですね。熊本の人、時々鹿児島は黒だという、鹿児島は黒なんですね。黒酢、黒豚、黒毛和牛、黒麴で造る焼酎とかね、島津の黒い十文字とかね、鹿児島、黒、黒、黒、黒なんです。熊本の人、じゃあ熊本は、もう何が何でも赤だと言ひ張るわけです。なんで赤ですかと。それは熊本と言えば赤だと。考えてみろ、まず馬刺しだと。肥後の赤牛。まあ2つぐらいしか出なかったんですけどね。そうですか、ということで赤にしたわけです。「はやとの風」で。これはブルーのところを走っていますが、鹿児島中央駅から霧島のほうに走っています「はやとの風」。真黒い列車であります。世界で機関車を除いて、SLとか除いて、車両が真黒なのはこの列車だけあります。この前鹿児島中央駅で、おばあちゃんとお孫さんが、この「はやとの風」に乗ろうとしているのを、私はホームのそばで見たら、お孫さんは喜んで飛び乗っていました。中も大変おしゃれな楽しい列車になっているんですけど、おばあちゃんは乗る寸前に躊躇しましたね。「おら、この列車に乗るの嫌だ」と。私は近づいて聞きました。「なんでですか？」「いや、これ霊柩車に似ているから嫌なんだ」とか言って。確かめましたら、今もおばあちゃん元気で、この列車も乗っていただいたようでありますけれど。今度は黄色い列車、「菜の花デラックス」とかですね、それから宮崎でいきますと「海幸山幸」ってこれも、車体前部外側は飫肥という町の杉を使っています。宮崎県日南市の飫肥というところが杉の産地であります。車体の外、それから中も背もたれとか、棚とか手すりとかブラインド、全部飫肥の、飫肥杉、やり過ぎという感じですね。

JR博多シティ開業ですね。博多駅ビルがいろいろできますということで、JR博多シティという名前を付けました。こんなもんで

すね。延べ床 20 万平米ということです。延べ床 20 万平米というのはどれぐらいかといいますと、1997 年、今から 13 年前に京都駅ビルができました。これが 23 万平米でありますね。23 万平米ですけど、あれはホテルグランヴィアというホテル付きの 23 万平米であります。私ども博多駅ビルはホテルは入りません。ホテル無しの 20 万平米ですから、商業集積は京都駅ビルよりはこちらが上となります。博多駅ビルにはホテルが入らないということを、駅前の日航ホテルの社長に申し上げましたら、それは感謝されましたけれど。「いや、唐池さん、ありがとう」と言われましたけど。2000 年に名古屋の駅ビルが出来ましたよね。名古屋は大きいんです。ツインタワーですから。40 数万平米延べ床があります。ただ 1 つがオフィスと、もう 1 つはホテルマリオットが入ってしまっていて、これもホテルとオフィスを除けば、商業集積では名古屋駅よりも大きい駅ビルになります。それからその次 2003 年に札幌駅ビルができて、これは 27 万平米の延べ床で、これはホテル日航が入ってしまっていて、ホテルを除きますと、博多の方が大きいと、こういうような商業施設が中心の駅ビルが出来上がると、こういうことでもあります。どんどん飛ばしましょう。

千住博先生の監修によりまして、お客様から葉っぱの絵を募集しまして、28,000 枚集まりまして、ご応募いただきまして、それを有田焼の陶板に焼き付けました、一枚、一枚。それをすべて博多駅のコンコースと 1 階、3 階、そして屋上の壁に張り詰めます。28,000 枚の有田焼の陶板の森が出来るということになります。ゾーニングでは阪急百貨店、東急ハンズ、そしてシネコン、専門店街が阪急さん以外に 200 店ほど専門店が入るということになります。こんな大屋根も用意しております。まだ工事していませんけどね。こんなことでもあります。私どもがこの博多駅ビルを考えたときも、先ほど言いましたように、天神対博多という図式でよく質問をされますけれど、

そうじゃないんじゃないかと思います。

九州内全体を元気にするということが、私たちが一番考えていることでありましてね。決して香椎に住んでいる人に、是非天神よりも博多駅に来てほしいとか、久留米に住んでいる人に、天神よりも博多駅に来てほしいとか、そんなことは思いませんでね。先ほど言いましたように、観光地は、7割、8割がアジアの人なんですね。天神のデパートのお話を聞きますと、高級品とかブランド品、貴金属を買うのは、もうほとんど日本人はお買いにならない。アジアの人が、ごさっと買っていらっしゃるということですよ。中国人、そして香港の人、台湾の人、韓国の人が、ごさっと買っていくんですね。これは大変な消費パワーでありまして、観光地を賑わすパワーも、アジアが圧倒的であります。私たちは僅かな額を九州内の1,300万人の人のために、コマーシャルを流したり、ポスターを貼ったり、広告展開しますよ。これも何千万か何億円か使いますよ。でも1,300万人の人に何億円を使ったコマーシャルを流しても、熊本城には2割もいないんですよ。全然流さない九州に80万人やって来られるアジアの人が、全然広告を流さない80万人のアジアの人が熊本城に8割いるんですよ。どんどんどんどん流して、「熊本最高ざんす、スザンヌキャンペーン」みたいなのをやっても、熊本城に2割しか。それも九州の人は、そのうちの半分ぐらいしかいない。私たちの広告のターゲット、プロモーションのターゲットは、間違っているんじゃないかと反省しているわけです。

それぐらいにアジアを意識しなければいけない。先ほど言いましたように、もう都市間競争が激しい、地域間競争が激しいわけですから、観光、あるいは町づくりは。網走刑務所だってもう台湾人が圧倒的に多い。1年前、ウォン安で韓国の人が九州に来るのが、バタッと止まりました。韓国の人がどこにも行かないかという、それは言っているんですね。台北に行っていますし、香港に行きますし、

上海に行っていますし、ベトナムに行っていますし、遠くはヨーロッパに行っていますよ。たまたま日本には円高で来なかっただけで、韓国の人はずんずんまた海外に行きますよ。そうしますと、私たちのライバルは、博多駅のライバルは天神じゃなくて、もちろん北九州でも熊本でも、久留米でもないんですね。私たちのライバルはというと、一番は東京ですよ、ねえ。そして、京都、大阪ですよ。今、日本のゴールデンコースは、東京でショッピングをして新幹線に乗って京都に行って、京都のお寺とか神社とかを見る、そして日本料理を食べる。これはアジアの人のゴールデンコースですよ。

アジアの人が日本に来る目的をアンケートで見ますと、1番がショッピングですよ。そのショッピングに近い2番目に人気のあるのは、「日本料理を食べたい」なんですね。3番目は温泉なんです。4番が和の文化を見たい。和の建築物を見たい。そして和のおもてなしを受けたい、ということなんですね。それで7番か8番目に「新幹線にも乗りたい」と。10年前はもっと多かったんですよ。「新幹線に乗りたい」が、3番か4番に来たんですよ。今はちょっと7番か、8番か9番になっちゃった。そのショッピング、日本料理、温泉、和の文化ですよ。そう考えますと、九州全部総合力を發揮しますと、これは全部九州で完結するんですよ。ましては新幹線は7番か8番になっちゃいましたが、今回新幹線もできますから、和の文化は九州にはふんだんにありますし、日本料理、おいしいのは、特に素材がいいですからね、九州は。そして温泉は、もう温泉王国。ショッピングは福岡、天神、及ばずながら博多もね、一緒に手を組めば、そこそこやっていけるんじゃないか。

ライバルは東京なり、大阪なり、京都ですよ。そしてさらに言いますと、北海道の札幌であり、網走なんです。さらに言うと、上海とかソウルもライバルなんです。台北も香港もライバルなんです、実は。ライバルは天神、ライバルは久留米、ライバルは北九州、そ

うじゃないと思いますね。九州は幸いなことに、アジアの人が来たい要素を全部持っているわけですから。あの世界の阿蘇があるわけですし、世界一の別府の温泉があるわけです。そして海外との交流のまさに老舗という長崎があるわけです。火山を言えば、桜島があるわけです。そして和の文化は至るところにあるわけです。温泉がある。そしてショッピングもできる。新幹線もできる。完結するんです。だから敵は東京、敵は北海道、敵は大阪、京都、敵は上海、香港なんです。だから天神対博多じゃなくて、天神、博多、さらには九州全部が一体になって、「うちだけ来ればいい」ということじゃなしにね、福岡空港に入ってもらって、そこから回遊してもらおうとか、とにかく九州いいところを巡れば、他の地域に勝つんです。そういう発想で進めていきたいと。そうすれば必ず九州は元気になるということでもあります。ご静聴ありがとうございました。